

科目名	初等教育論		科目コード	2003	
開講学科	初等芸術教育学科	単位数	4	形態	講義
教員名	平良伸哉				
授業の目的及びテーマ：					
<p>「教育をどうとらえるのか」「教える（学ぶ）ということ」「教育実践における現代的課題」という観点から教育についての基礎的かつ幅広い知識を身に付ける。また、その過程において、教職をめざす者として、教育について積極的に考えようとする意欲・態度を養う。</p>					
授業概要					
<p>授業者は、小学校教諭、教育委員会指導主事、教育センター所長、公立学校・私立学校長等、40年にわたり初等教育に携わってきた。大学院で研鑽した教育理論を背景に、実践教育を展開した経験を授業の中に効果的に反映したい。授業における課題については、受講者どうしが主体的・対話的に意見交流する場を設定する。課題に関連する必要な知識の習得については、講義形式と受講者自身の積極的な調べ学習を取り入れる。</p>					
授業計画：					
<p>1 「教育とは何か」① -教育とは何か- ・教育とは何かについて、受講者の私見を引き出しつつ、日本社会での捉え方や歴史的視野をもって、「教育」の概念と性格について整理する。</p> <p>2 「教育とは何か」② -子ども観と教育- ・子ども観と教育のかかわり、日本と欧米の子ども観の違い、少子化と子ども観について考える。 ・ルソーの子ども観について知る。</p> <p>3 「教育とは何か」③ -人間の発達と教育- ・「成長」「成熟」等の類似の概念と比較することによって、「発達」とは何かについて考える。 ・発達の基盤としての人間の特性（ポルトマン）について知る。 ・「発達と教育」に関する諸理論（ピアジェ、ワロン、ヴィゴツキー）が果たした意義を整理する。</p> <p>4 「教育と社会」① -近代学校の成立- ・西洋でつくられた近代学校での文化伝達の方式を知り、それが移入された日本の近代学校の展開を把握する。 ・「なぜ学校に行くの?」改めて学校に行くことの意味を考える。</p> <p>5 「教育と社会」② -国民国家と教育- ・「国民」、その2つの概念を知る。 ・国民教育の思想を思想家の名前とともにまとめ、整理する。 ・戦前、戦後の日本における国民教育を比較する。</p> <p>6 「教育と社会」③</p>					

-社会変動と教育-

- ・教育と社会との関わりを社会変動（1960年代の高度成長）を視点として捉える。
- ・高度成長期の前と後の教育課題の変化について検討する。
- ・学習指導要領の変遷について合わせて検討する。

7 「教育の目的」①

-近代の教育思想-

- ・近代教育思想の特徴を概観することによって、教育の目的（どのような人間を育成するか、どのような社会をつくるのか等）がもつ特徴を整理する。

8 「教育の目的」②

-ジェンダーとセクシュアリティ-

- ・学校教育におけるジェンダー、セクシュアリティによる差別の例としてどのようなものがあるか考える。
- ・課題解決に向けた具体的方法、取組みについて考える。

9 「教育の目的」③

-リテラシーと教育-

- ・学力をめぐる問題をリテラシーという視点から捉え直す。
- ・新学習指導要領改訂にあたっての教育理念から機能的リテラシーを捉える。
- ・塾や予備校ではなく、学校にしかできないことは何だろうか、リテラシーをヒントに考える。

10 「教育実践のグランドデザイン」①

-学ぶということ-

- ・学ぶことによってどのような可能性が開かれていくのか、個々の教育思想に即して考える。
- ・デューイ、フレイレの学びにおいて、学びの探求的・共同的・対話的な性格についてどのように提起されているかを知る。

11 「教育実践のグランドデザイン」②

-目標・評価・学力-

- ・教育目標とは何か、教育目的との比較で考える。
- ・学力とは何か、その定義についてまとめる。
- ・到達度評価、相対評価、絶対評価、形成的評価について整理し、教育評価の新しい動向について整理する。

12 「教育実践のグランドデザイン」③

-カリキュラム開発-

- ・カリキュラムは子ども達の意味ある学習経験をデザインしていくためのものとして開発されるものであるが、これからのカリキュラム開発では、現状の何がどのように変わる必要があるのかを検討する。

13 「教育実践の遂行」①

-学習の過程と形態-

- ・学習が本来備えている社会的・共同的性格を認識し、望ましい学習の過程や形態について考え、学校における学習をその方向に向けて再構成していこうとする知見を学ぶ。

14 「教育実践の遂行」②

-メディアとしての教材と教科書-

・教師が行う教材研究は何か、なぜ重要なものとされてきているのだろうかについて検討する。

15 ○初等教育論（前半）まとめとふりかえり

- ・これまでの学修について、その学びの軌跡をふりかえる。
- ・学修の成果をふりかえるテストをする。

16 「教育実践の遂行」③

-学びの空間のデザイン-

- ・受講者自身の学校生活において、愉快地に感じたり、わくわくしたり、心がはずんだりしたのは、どのような場所でどのように過ごした時だったのかを思い出し、意見交流する。

17 「教育実践の遂行」④

-学びの基盤となる生活指導-

- ・生活指導の歴史的な形成過程を学ぶと共に、生活指導の現代的課題（人間らしく生きることのできる場づくり、信頼できる人間関係づくり）について検討する。

18 「教育実践の遂行」⑤

-学びの基盤となる教育相談-

- ・生徒指導と教育相談との関わりについて考える。
- ・学校教育の現場で教育相談活動の重要性が認識されてきたのはなぜだろうか、検討する。

19 「教育実践の担い手」①

-教師の力量とアイデンティティの形成-

- ・教師にはどのような専門的力量的形成が求められるのか、また、教師としてのキャリアを積み重ねていくなかで、どのように職業的なアイデンティティを強化していくのかという問題について考える。

20 「教育実践の担い手」②

-教職の専門職化-

- ・教師はどのような社会的ニーズに応える職業人なのか、専門職化を展望する中で考える。

21 「教育の現代的な課題(教育の制度)」①

-教育行政と学校の統治-

- ・教育委員会制度の理念を理解し、整理する。
- ・教育委員会廃止論とは何か、なぜ廃止論が出てくるのかについて考える。

22 「教育の現代的な課題(教育の制度)」②

-教育における法と政治-

- ・教育における法治主義、立憲主義の意義はどこにあるのだろうかについて考える。
- ・国民の教育権と国家の教育権をめぐる論争とは何かを知る。

23 「教育の現代的な課題(教育の接続)」①

-就学前教育から初等教育へ、中等教育から高等教育へ-

- ・教育接続とは何か、その経緯をさかのぼりながら、日本の学校接続の特徴を整理する。
- ・これからの学校接続のあるべき姿を探る。

24 「教育の現代的な課題(教育の接続)」②

-社会教育と生涯学習-

- ・社会教育と学校教育の相違について整理する。

・生涯学習論が台頭する社会的背景を知る。

25 「教育の現代的な課題(共生の教育)」①

-子どもの学習と参加の権利-

- ・学習の権利が保障されている授業と保障されていない授業を比較する。
- ・近い将来教職に就く者として、どのような授業をイメージするのか。

26 「教育の現代的な課題(共生の教育)」②

-多文化教育-

- ・多文化教育が発展してきたのはなぜだろうかを検討する。
- ・多文化教育が子ども達の中に形成しようとする能力や資質はどのようなものだろうかについて検討する。

27 「教育の現代的な課題(共生の教育)」③

-特別な支援を必要とする子ども達への配慮-

- ・特別ニーズ教育と特別支援教育の相違を整理する。
- ・特別支援教育の課題について考える。

28 「教育の現代的な課題(共生の教育)」④

-多様性を認め合い学び合う教室文化の創造-

- ・聴き方を育てる。
- ・グループの「学び合い」をどう育てるのか。
- ・「わからない」の壁を乗り越えさせる学び合いとは何かについて知る。

29 「教育の現代的な課題(共生の教育)」⑤

-多様性を認め合い学び合う教室文化の創造-

- ・学び合う教室文化を支える実践について知る。
- ・近い将来教職に就く者として心掛けることとは何かを考える。

30 ○初等教育論（後半）まとめとふりかえり。

- ・これまでの学修について、その学びの軌跡をふりかえる。
- ・学修の成果をふりかえるテストをする。

テキスト

「初等教育原理」森上史朗 編
ミネルヴァ書房

参考文献：

評価方法：

通信授業は提出課題(4件)を以って評価する。

面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。